

実施報告書・書式例
(A4判にてご作成ください。)

課題番号(10ポイント)

課題番号 ○○○○○—○○○

余白 25mm

表題(原則、応募時の課題を記入)
(13ポイント以上)

利用課題名

Development of Nuclear
Method for Core

原子力 太郎¹⁾ 原子力 花子²⁾

Taro GENSHIRYOKU Hanako GENSHIRYOKU

英訳表題(10ポイント)
(11ポイント)

所属(略称)

¹⁾○○大学 ²⁾原子力機構

ローマ字氏名(名→姓の順)
(9ポイント)

概要

・ ・ ・ 時 解析のための評価手法を開発した。今後・ ・ ・ ・ ・ 方法を検
し、・ ・ ・ ・ ・ 適用していくことを予定している。

キーワード: ○○炉心, ○○○○, ○○○
(1行あける)

キーワード
日本語で5語(句)程度

余白 20mm

余白 20mm

1. 目的
・ ・ ・ ・ ・ は、・ ・ ・ ・ ・ に依存している。・ ・ ・

・ ・ ・ 総合評価手法を開発した。

2. 方法
・ ・ ・ ・ ・ を使用した。・ ・ ・

・ ・ ・ チャンネル解析により求める。

3. 結果及び考察
・ ・ ・ ・ ・ に適用し、・ ・ ・ ・ ・ 生成による・ ・ ・ ・ ・
・ ・ ・

・ ・ 広範囲な異常・ ・ ・ ・ ・ 評価に適用できる

今後・ ・ ・ ・ ・ 方法を検討し、・ ・ ・ ・ ・ に適用していくことを予定している。

4. 引用(参照)文献等

余白 25mm

<記入要領>

1. A4版(48字×38行程度)で1枚から4枚程度にまとめてください。
2. 本文は10ポイントで記述してください。
3. 原子力機構職員を共著者として取り扱う場合は、共著欄に明記してください
4. 余白の寸法は厳守願います。
5. 一般的でない略語には説明を付けるなど、専門家以外にも分かりやすい文章に心がけてください。
6. 図(グラフ)や表を用いる場合は、図表に番号、タイトルを付け、文章との関連が明確になるようにしてください。

- ・ 実施報告書は、原子力機構のホームページで公開いたします。
- ・ JRR-3 中性子ビーム実験の実施報告書は WORD 文書にて提出をお願いします。(文部科学省の「共用ナビ」に掲載するため機構で体裁を加工させていただきます)
- ・ 論文等による成果発表の予定、件数を、次葉の様式にご記入の上、ご提出ください。

以下の項目について必ず記入してください。(公開されません)

実施報告書提出日	年 月 日 提出期限は原則 5 月 30 日必着です。											
研究代表者	原子力 太郎 (○○大学大学院工学研究科)											
利用施設	施設	装置 (ビームポート、ライン名等)										
	JRR-3	SANS-J-II, TNRF										
成果公表の予定	<p>供用施設を利用した年度の翌年度の 4 月 1 日から起算して 2 年以内に論文発表等で成果を公表し、公表後速やかに「成果公表連絡票」により発表資料等の写しを添えて報告してください。 定められた期間内に成果が公表されなかった場合は、成果占有課題の利用料金が適用され、お支払済みの利用料金との差額をお支払いいただきます。また、今後の利用課題の採択及び利用時間の配分を決定する際に重要な判断基準となりますので、ご承知おき願います。</p>											
発表形式 (該当を○で囲む)	<p>原著論文、総説、プロシーディングス、書籍、雑誌、社内報、 学会、研究会、セミナー、シンポジウム、講演会、報告会、プレス発表、 特許出願等</p>											
誌名/講演会名	Journal of ○○											
投稿/発表時期 (該当を○で囲む)	<p>3ヶ月以内 6ヶ月以内 1年以内 2年以内 発表の予定が立たない</p> <p>発表の予定が立たない場合はその理由 例：「論文になる十分な結果が得られなかったため再実験を行う予定」、「複数回の実験が必要で次回の課題終了後に発表予定。」等</p>											
公表にあたって	<p>本研究を論文発表等で成果を公開する場合は、論文等に「日本原子力研究開発機構の施設供用制度」にて行ったことを明記してください。</p> <p>英文の場合は、以下を参考にしてください。</p> <p>This work was performed under the Shared Use Program of JAEA Facilities.</p>											
学位論文等の件数	<p>機構の施設供用制度をより一層発展・充実させるためには、供用施設を用いて行われた研究成果が科学技術発展への寄与や成果の社会への還元が図られていること、そして施設供用が原子力の人材育成に寄与していること等を、外部に向けて発信することが求められています。</p> <p>そのため供用施設を用いて行われた研究に係る学位論文等の件数が重要な指標の一つとなりますので、該当がある場合は以下にご記入願います。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>集計期間*</td> <td>令和 2年 4月～令和 3年 3月</td> </tr> <tr> <td>学位論文 (博士)</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>学位論文 (修士)</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>学位論文 (学士)</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>学術論文</td> <td>3 件</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">* 集計期間は、施設供用が行われた年度の 1 年間</p>		集計期間*	令和 2年 4月～令和 3年 3月	学位論文 (博士)	1 件	学位論文 (修士)	件	学位論文 (学士)	1 件	学術論文	3 件
集計期間*	令和 2年 4月～令和 3年 3月											
学位論文 (博士)	1 件											
学位論文 (修士)	件											
学位論文 (学士)	1 件											
学術論文	3 件											